

不安 怒り 着火

だが、横須賀市国際交流・基地政策課の担当者は「もともと弾薬庫があり、関連施設を造る話は以前からあった。ミサイルの種類によっては既存施設に入りきらないため整備する」と語り、米海軍横須賀基地もある横須賀市ではかつて、トマホークと見られる兵器が米艦船に積み込まれるのが目撃されたこともある。同基地の米空母配備に反対する市民団体の沢園昌夫さん（67）は「狙われる対象になるうえ、何かあった時に弾薬が起爆すれば市民への影響は大きい。防衛力増強の一環だろうが、横須賀を『攻撃基地』にする覚悟があるのか」と案じる。

ところで大湊と大分が、早々に大型弾薬庫の整備地として名指しされたのはなぜなのか。

現在、自衛隊が保有する弾薬庫は約千四百棟ある。だが、元海上自衛官で軍事評論家の文谷敦重氏は「海自は三十年前から弾薬庫が不足し、陸自も北海道や群馬に弾薬庫が偏在してい

陸自・海自 弾薬庫不足と偏在に悩み



る」と背景を説明する。発火や爆発のリスクに備え、弾薬庫は住宅や民間施設などから一定の距離を取らなければならない。だが、特に海自の主要基地は大湊を除き、周辺の都市化による宅地増で、保管可能な弾薬の量が少なくなっているという。

この二カ所に新設される大型弾薬庫には、どんなミサイルが配備されるのか。文谷氏によれば、海自の弾薬庫にはトマホークのほか、開発中の能力向上型の12式誘導弾のうち艦対艦型や空対艦型の配備が見込まれるという。陸自については「地对艦型もあるだろうが、どちらかと言えば、地对空ミサイルが中心になる」と切り捨てる。

長射程ミサイル「抑止力になるのか」

対空ミサイルが多くなるのではないかとみる。文谷氏は「大湊の弾薬庫にはトマホークだけではなく、その他のミサイルや砲弾、魚雷や機雷、爆弾なども保管されるだろう。大湊の艦艇に搭載するのが原則だが、全国の艦艇や海自航空機のために輸送され、弾薬をまとめて保管する一大弾薬庫になる可能性もある」と指摘。「防衛費増額で弾薬を買うことになったが、保管場所がないので慌てて新設する泥縄的な動き。予算の執行に困り、余ったカネを施設に回した面もあるかもしれない」と切り捨てる。

- ① 沖縄・宮古島にある陸上自衛隊保良弾薬庫—2022年3月
- ② 米軍の巡航ミサイル「トマホーク」。岸田首相が400発の購入を明言した—ロイター・共同
- ③ 那覇市で開かれた、沖縄県内の自衛隊増強に反対する緊急集会—28日

岡俊次氏も「置き場を確保できるのが最重要だった。戦略的にこの二カ所を選んだわけではない」と解説する。敵基地攻撃能力の整備にひた走る政府を念頭に「長距離のミサイルを相手に撃つことが、何の抑止力になるというのか。撃ち合いになれば甚大な損害は目に見えている」と危ぶむ。

実際、ウクライナ侵攻では、双方の弾薬庫が攻撃目標になり、ミサイルやロケットの攻撃を浴び続けている。巨大な爆発が相次ぎ、近隣住民が避難を余儀なくされたケースもある。

そもそも自衛隊の弾薬庫は近年、海洋進出を進める

中国を念頭にミサイル配備が進む沖縄県の石垣島や宮古島で着々と増設されてきた。一部報道では今後の整備が予定される候補地として、奄美大島の陸自瀬戸内分屯地や宮古島の陸自保良訓練場も挙がっている。

「これまで一番とんでもない状況。最悪の状況だ」と憤るのは、沖縄国際大の照屋寛之名誉教授（政治学）。今月二十六日に那覇市で開かれたミサイル配備反対の集会には千六百人が参加した。「沖縄や南西諸島の人々を無視し、敵基地攻撃能力を押し付ける政府のやり方はおかしい」と訴え、こう続ける。

「自衛隊基地が中国への抑止力と言うが、ひとたびバランスが崩れると、最前線で攻撃にさらされる南西諸島は蜂の巣になる。沖縄の悲しみと怒りはピークに達している」